

ミシェル・ルピサン

JAPN301SL

12月4日2011年

9月30日から今まで、毎週の金曜日ハイランド小学校でサービスラーニングをしていました。今週の金曜日は最後のレッスンの予定です。私達のグループは色々なアクティビティーで小学生達に日本の文化を教えていっていました。レッスンの時間では、前半は1年生と一緒に、後半は4年生と一緒にです。両方のグループでは約10人から12人の子供達があります。私達のサイトディレクターはリリーというやさしい人です。グループメンバーは私、ジョー、はるな、さとみ、みき、そしてグループのリーダービッキーです。

これからは今までしたレッスンについて書きたいと思います。最初のレッスンは日本の紹介でした。自己紹介したり、子供達の日本について知っていることを分かたり、挨拶を教えたりするというレッスンを行いました。そして、皆の名前を覚えるように、ネームタグも作りました。ネームタグ通して日本語で名前の書き方を子供達に教えることも出来たので良いと思います。最後にフルーツバスケットというゲームを紹介し説明してから、皆で遊びました。

レッスン2はお箸の使い方についてレッスンでした。まずは、お箸の歴史とどこから来たことを手作りの紙芝居で教えてあげました。そしてマナーやお箸を使う時にしてはいけないことも説明しました。このレッスンで、アメリカと日本の食文化の比較も出来ました。お箸は大切な日本の文化なのに、やはり使い方は1年生にとって難し過ぎて、あまり正しく使えませんでした。紙のボールを取る練習を行った時に、両手でお箸を使ったりする子がたくさんいました。結局子供達は自分のお箸をマーカーで飾ることにしました。

3回目のレッスンはおにぎりの作り方のレッスンでした。ご飯や海苔に行く前に準備していて、学校に持って行きました。このレッスンでまた日本食文化を説明し、比較が出来まし

た。例えば、誰がサンドウィッチのようなランチを学校に持って来るかという質問を子供達に聞いたら、ほとんどの子供は手をあげました。それから、アメリカのサンドウィッチと日本のおにぎりを比べるのが出来て、日本の学生達はよくおにぎりのようなシンプルなランチを持って来るということも教えてあげました。文化の説明の後で、さとみさんとみきさんがおにぎりの作り方を教えてから、皆でおにぎりを作ってみる活動を行いました。日本人じゃないグループメンバーにとって、おにぎりの作り方をあまり知っていなくて、私達も子供達と一緒に習っていた感じがしました。残念ながら、ご飯は足りなくて、早く使ってしまったので、4年生が来た時にこのアクティビティーをもう一回するのが出来ませんでした。でも、1年生はおにぎりの作り方で楽しんでいて4年生が本当におにぎりを作りたかったので、次回同じアクティビティーを4年生と一緒にしようトリリーさんが頼んでくれて、私達は喜んでしました。2回目は初めてした時より準備していて、上手く行ったと思います。ご飯をたくさん炊いていって、トリリーさんもかにやアボカドやキュウリや焼き魚などのおにぎりに入れる材料を持って来ました。それから、今度はラップも持って来たので、おにぎりを作る時にラップを使ったら本当に作りやすくなりました。初回と違って、おにぎりをもっときれいに作れて、片付けるのは簡単でした。それから、初回の問題から学んで、2回目に改善点を使用するのが出来たので良かったと思います。

4回目のレッスンはハロウィーンのテーマで、妖怪を紹介してマスクを作るアクティビティーを行いました。妖怪の中で色々なタイプを紹介して、お化けとか鬼について説明しました。そして、子供達が想像できるように、描いた妖怪の絵を見せてあげました。また自分達の文化と比べるために、アメリカのゴストについて話し合っ、妖怪との違いを話し合いました。その後、皆は紙皿でマスクを作りました。しかし、私が作ったお化けマスクの例を見た時、ピカチュウに似ていたと子供達が思っていたので、グループメンバーに同じようなマスクを作っ

てもらおうということをお願いしていました。子供達が自分でマスクを作って欲しかったので、お化けの目と耳の形を切り抜いてあげただけで、子供達に自分のマスクを好きなように飾らせました。最後にリボンをつけて、皆はマスクをかけて写真を撮りました。マスクを家に持って帰って子供達が本当に喜んでくれました。

レッスン5は漢字について、スムーズに行ってたレッスンだと思います。なぜかという、私達は事前によく準備していたからです。ワークシートや漢字のステンサルや絵などを準備していきました。それから、クラスマネージメントも上手く行ったと思います。まずは、漢字の歴史を教えて、中国から来たことを教えました。そして、やり過ぎないように、絵のように見える簡単な漢字を選びました。山とか木とか川とか月などのような漢字を選んで子供達に教えました。それから、二つのグループに分けて、一つのグループは準備した絵でマッチングゲームをしながら、他のグループは水彩絵の具で学んだ漢字を書く練習していました。グループメンバーも半分に分けて、各のグループに入って、子供達と一緒にアクティビティーをしました。15分ぐらい後、子供達とメンバーもアクティビティーをスイッチして、皆は全部のアクティビティーを試みるのができました。最後に、皆はワークシートを記入し始めて、家に持って帰りました。

レッスン6は実に他のグループから来ました。はるなさんがマーシャルのサイトでサーブした時に、こんなアクティビティーをして、私達のグループもハイランド小学校で行いたいと思ってレッスンプランを作ってくれました。日本の地理についてレッスンでした。まずは、大きい地図で日本列島を紹介して、島の名前の言い方を皆で練習しました。次に、四国から来た「海に沈んだ鬼」という紙芝居と一緒に読んで、メンバーがそれぞれ役割して、子供達まで嵐の音をしてもらって、皆は紙芝居で楽しんでいました。

最も最近のレッスンはお正月について7回目のレッスンでした。まずは、アメリカのホリデイについて話し合ったり、そろそろ来るクリスマスについて談話しました。その基にして、日本のお正月を紹介し、アメリカのクリスマスと比べるのが出来ました。そして、黄道十二宮の12匹の動物を紹介して、日本語の名前も教えてあげました。最後に、皆は年賀状を一緒に描きました。これで全部の今までしたアクティビティーの説明を終えます。

このサービスマスター経験で色々なことを習えたと感じています。例えば、子供達と近付いていくと、彼らの好きなものに気が付きました。手で作るものや家に持って帰るものが好き、動いている時に楽しんでいるので、毎回その方法を使ってレッスンプランを作るようにしました。それから、競争の良くない点も習いました。私の最初に思ったのは、競争通じてアクティビティーを行ったら、子供達がきっと参加してくれるという考えでした。なぜなら、何かプライズがあったら、子供達が勝って受賞者になる動機で一生懸命参加してくれたらと思ったからですけど、あまりそうじゃなかったです。お箸の活動では、紙ボールを取る練習していた時に、前に説明した通り、子供達は両手でお箸を使っていたので、私は正しい使い方を見せてみましたが、自分のやり方しかしたくなかったです。そのため、「そろそろ試合を行って、正しく使えばぜったいに勝つよ」のような言葉を私は言いましたが、ある子は「僕は試合が好きじゃない、一度も勝てない」と答えてくれました。この言葉を聞いたら、よく分かりました。良い方法だと思ったのに、競争というのは子供の自信を下すかも知れなくて、そうしたら皆で平等な感じをさせるのが出来ないから、やはりだめな方法だと気付いていました。後は、忍耐の肝要も習っていて、毎回子供と一緒に時に忍耐を覚えていきます。すごく元気な子供がいるし、時々うるさくなるので、気が短かっただめです。子供達の場合には、忍耐強さは本当に必要だと思います。

ハイランド小学校でしていたサービスで「Learning Outcomes」という授業の目的をよく果たしたと思います。一番目の目的は教えること通して日本文化をもっと分かるようになるということで、毎回日本についてレッスンを作ることによってその目的が出来たと思います。日本文化について忘れたことがあるし、初めから知っていなかったこともあるので、教えながら私も復習したり習ったりすることが出来ました。例えば、お正月とか地理は高校生の時に学んだことだから、その中であまり覚えていないことがあったけど、私達のレッスン通して昔の学んだことを思い出せました。それから、妖怪とかお化けについて全然知っていなかったなので、そのレッスンで新しい文化も習えたと思います。

二番目の目的は自分の文化を思っ、二つの文化を比べて、文化の同異をよく分かるということです。私達のレッスンを説明したとおり、日本文化とアメリカの文化を比べる機会がたくさんありました。お箸とおにぎりのアクティビティーでは、日本とアメリカの食文化をよく比べることができました。それから妖怪とかホリデイも比べたので、子供達だけじゃなく、グループメンバーも自分の文化と日本の文化の同異をちゃんと勉強できたと思います。

三番目の目的は文化的な情感、尊敬、承知の方法で子供達に教え方を習うということです。ハイランド小学校で、アメリカだけじゃなくて、他の文化もあります。特に、メキシコ人がたくさんいて、その子供達はたまに自分達の間でスペイン語で喋っていました。私達は日本文化を教えているのに、他の文化を捨てたくないの、その時に子供達のスペイン語も認めるようにします。ある時、子供達は私にスペイン語の言葉を教えてくれて、私も子供達のように習えたと感じていたの、ちょっとやり取りのような感じがしました。それで、日本だけではなく、皆の文化を尊敬しながら、子供に教えるのが出来たと思います。

最後の目的はディスカッションや随筆やプレゼン通して日本語と日本文化の知識を上達するということです。この目的を必ず果たしたと思います。特に、毎週のレポートを書くこと

で上達出来たと思います。2年間ぐらい日本語を勉強しなかったから、この学期の初期は私にとって非常に難しかったです。初めてのレポートを書いた時に、長い間に過ごしていて、本当に書きにくかったですけど、またまたレポートを書いたら、もっと書きやすくなりました。そしてディスカッションやプレゼンで話すことを練習出来たので、話すことも楽になりました。その理由で、私の日本語にもっと自信を持つようになれたと思います。

最後に、サービスラーニングの経験について思ったことを伝えたいと思います。サービスを始めた前に、サービスというのはボランティアや助けと同じことだと思ったけど、クラスで3人の作家の記事を読んだとおりに、その三つは実に違っていると気付きました。得に、レメンという人が書いた助けについての違いを直接に経験していました。レメンが書いたのは、誰かを助けてみたら、その人は目下の人で、自分は目上の人だと思う感じをさせて結局彼は自分が問題があると思うようになって、自信を無くすかもしれないということです。ある日、一人の子供が静かになって、アクティビティーに参加し止めて、ちょっと悲しく見えました。多分アクティビティがよく出来なかったためだと思ったので、皆は手伝ってみましたが、やっぱりだめでした。リリーさんが放っておくことを進めましたが、最初にその方法がちょっと心配させました。「悲しかったら、放っておいたらだめじゃないですか？」と自分が思ったけど、やがてレメンが言ったことと全く同じことだと気付きました。もし子供達が私達から助けて欲しくなくても助けを迫ったら、彼らの自信を下すかもしれません。それから、私達のレッスンは子供達の初めての日本について習った経験なので、それは大切だと思います。クラスで話し合ったように、小さい時に習った方が良いから、今子供達に教えたらいいです。もし、このサービスが出来なかったら、この子供達は高校生になるまで日本のことについて勉強する機会がなかったかもしれません。だから、サービスラーニングでアクセスを与えられたと思います。また、皆の平等も大切だと思います。こんな外国文化を学ぶ機会を与えても、皆にとって

平等な機会じゃないと意味はありません。だから、全員の子供の言いたいことを聞いたり、それぞれの子を褒めるようにしています。それは次のトピックと繋がっているけど、社会正義ということです。社会精義というのは、上の全部話したことだと思います。子供達とサービスラーナーと、双方で学ぶこととか、平等とか、多様性を認めるということです。つまり、皆は違っていても、誰もが誰よりもっと良くないということをお子達にちゃんと教えるのは大事なことです。そう出来たらいいと思って、サービスラーニングの経験は本当に価値があると思います。